

医学教育分野別評価

帝京大学医学部

年次報告書

2024(令和6)年度



2024(令和6)年8月

医学教育分野別評価の受審	2022（令和4）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版	Ver. 2. 33
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版	Ver. 2. 36

はじめに

帝京大学医学部は、2022年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2023年6月1日より7年間の認定期間が始まった。帝京大学医学部はその使命の中で「自立と自律の精神を身につけたよき医師を育成して社会に貢献する」ことと同時に、「この使命を将来にわたって果たし続けるために、常に自らの評価と改善を継続」することを謳っている。医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 36を踏まえ、2024（令和6）年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、実地調査が実施された2022（令和4）年10月から2024（令和6）年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 36の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

帝京大学医学部は使命を定め、教育目的、学修成果としてのアウトカム、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を明示し、広く公開している。また、教員および学生に対しての周知が行われている。使命のもとにアウトカムとして9つのコンピテンスと36項目のコンピテンシーを定めている。ディプロマ・ポリシーとコンピテンス、コンピテンシーとの整合について関係を明示している。今後も大学の使命、社会が求める医師像との連携が常に図られているか継続して検討していく。

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

医学部の使命を定め、ホームページ、臨床実習の手引きなどに公開している。

学生に対して、各学年で年度初めのガイダンスや臨床実習前などで繰り返し説明し、使命の周知を図っている。

改善のための助言

教職員への使命の周知をさらに図るべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

特記すべき良い点として挙げられた使命の公開と学生への周知についてはホームページ、臨床実習の手引き、各学年のガイダンスなどで繰り返し説明を行っている。

教員については2023年度実施の全ての教員を対象とした「医学教育の質向上のための調査」によると医学部の使命、学修成果の認知度はそれぞれ95%、93%であった（資料1-01）。

職員への使命の周知のため、大学棟では、学内掲示板やLMS掲示板に医学部の使命を掲示し、附属病院では全モニタのスクリーンセーバーへの掲示を行うことで啓発を進めている。今後医学部の使命の周知度について、自己点検・自己評価委員会はIR・医学教育評価室と協力して教員・職員向けの調査を定期的に行い、周知や浸透に向けた活動が成果をあげているか調査を継続する。その上でウェブサイトや冊子、カード、スクリーンセーバーなどを活用しつつガイダンスなどでの周知を進めていく。

「医師を養成する目的と教育の指針」として求められている内容について、これまでの方針を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料1-01：2023年度医学教育の質向上のための調査（IR・医学教育評価室）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

使命に医学研究の達成、国際社会への貢献が含まれている。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

特色として評価いただいた「医学研究の達成、国際社会への貢献」については、外部評価委員が参加する本学の教育プログラム評価体制に則り医学部アウトカムの妥当性を検証し、その結果に基づき医学部の使命との整合性を定期的に検証している。

改善状況を示す根拠資料

資料 1-02：2023 年度第 1 回医学部内部質保証評価会議議事録（2023 年 7 月 19 日）

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

カリキュラムを実施するための資源配分は、目的に応じた委員会で審議され組織的に検討されている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育施策、特にカリキュラムを実施するための資源配分については、責任ある立場の教職員として医学部長および管理運営者として学長・副学長が行っている。また資源配分に関与する組織として共同研究設備等整備委員会、基礎医学委員会、臨床研究設備等整備委員会、臨床講座費配分委員会、教務委員会などがあり、組織として自律性を持って実施している。今後も配分された資源に対する学修成果のモニタリングを行い、自律性を持って教育施策を実施し、人的資源、予算を含め教育資源の見直しを継続していく。

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

科目の責任者や授業担当教員の裁量で、教育向上のために最新の研究結果を探索し、利用している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「教育向上のための最新の研究結果を探索し利用する取り組み」として、最新の研究結果を探索し、

利用する機会を確保し、教育・研究の自由が保証できるように図っている。最新のガイドライン、医療倫理（生殖医療、遺伝子診断、移植医療、終末期医療）、プレジジョン・メディシン、ゲノム医療、ロボット手術、倫理指針や臨床研究法、遺伝子治療、ゲノム編集、再生医療、人工知能、光遺伝子などが講義・実習に取り入れられている（資料 1-03）。

学生の研究室配属についてはその受け入れが拡大しており、学生は教員の指導の元、自ら最新の研究結果を探索している。その結果として、学生が学会などで発表する事例も認められ、その一部は優秀演題賞などを獲得している（資料 1-03、04）。

改善状況を示す根拠資料

資料 1-03：2023 年度 最新・最先端など授業への組み込みに関するアンケート（2023 年 5 月 8 日）

資料 1-04：研究室配属資料

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

基本的知識・技能・態度を網羅した 3 領域のディプロマ・ポリシーのもとに医学部のアウトカムとして 9 つのコンピテンスと 36 項目のコンピテンシーを定め、卒業時に達成すべき能力を「Level A」として明示している。

卒前・卒後の一貫した医師養成を目指し、医学部のコンピテンス・コンピテンシーを臨床研修の到達目標と対応させている。

改善のための助言

ディプロマ・ポリシーとコンピテンス・コンピテンシーとの対応をよりわかりやすく整理すべきである。

教育に関わるすべての関係者に対して学修成果をさらに周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アウトカムとして 9 つのコンピテンスと 36 項目のコンピテンシーを定めている。一方卒業時に達成すべき状態の概念として、ディプロマ・ポリシーが定められている。ディプロマ・ポリシーはコンピテンス、コンピテンシーの関係を明示している（資料 1-05）。

帝京大学医学部ウェブサイトや医学部のアウトカムへのコンピテンス・コンピテンシーの掲載を継続して実施した。また、学生や教職員、臨床実習施設でのガイダンスを実施した（資料 1-06～08）。今後も卒前教育で達成すべき基本的知識・技能・態度について、時代および社会的要請の変化に応じて対応できるよう、「医学部のアウトカム」の継続的な見直しを行う。

「学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを確実に修得」できるよう、カリキュラムの中で態度評価を行っており、学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとれることを確実に修得させている。現在のプログラムを継続する。カリキュラム委員会と IR・医学教育評価室が、学生や卒業生の実績を調

査、分析して、必要に応じて「医学部のアウトカム」、の改定を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 1-05：2023 年度帝京大学医学部 履修要項

資料 1-06：学生ガイダンス日程一覧

資料 1-07：学生ガイダンスでの配布資料

資料 1-08：医学部カリキュラム FD 開催記録（2023 年 9 月 16 日実施）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果を関連づけている。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果の関連づけ」について、医学教育センターと臨床研修センターとの定期協議において「医学部のアウトカム」の修正が必要と判断された場合、教務委員会・教育関係運営会議へその内容を提議する。これにより卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果をそれぞれ明確にし、関連づけていく。

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

使命と学修成果の見直しに学生が参画し、関与している。

改善のための助言

なし。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

使命と目標とする学修成果の策定、およびその検証・改訂に教育に関わる主要な構成者が参画し、アウトカムの見直しや改訂が必要な場合に対応していく（資料 1-02、08）。2023 年度に教学体制に関する組織が改訂され、カリキュラム委員会と、教育プログラム評価会議が新たに組織された。カリキュラム委員会は教育プログラムの立案組織であり、教育プログラム評価会議は評価組織である（資料 1-09、10）。実施組織である教務委員会との明確な分離が目的であり、いずれも学生参加のもと、アウトカムの見直しを立案、また改訂が必要な場合があるかについて評価を行うものである。

改善状況を示す根拠資料

資料 1-02：2023 年度第 1 回医学部内部質保証評価会議議事録（2023 年 7 月 19 日）

資料 1-08：医学部カリキュラム FD 開催記録（2023 年 9 月 16 日実施）

資料 1-09：2023 年度第 1 回カリキュラム委員会資料（2023 年 7 月 25 日）

資料 1-10：2023 年度_第 1 回教育プログラム評価会議議事録（2023 年 10 月 3 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

患者や地域医療、卒後教育の関係者など、広い範囲の教育関係者からの意見を聴取している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「広い範囲の教育の関係者」として、改訂案を内部質保証評価会議において広い範囲の教育関係者に示し、意見を求め、必要に応じて意見を反映していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 1-02：2023 年度第 1 回医学部内部質保証評価会議議事録（2023 年 7 月 19 日）

資料 1-08：医学部カリキュラム FD 開催記録（2023 年 9 月 16 日実施）

資料 1-09：2023 年度第 1 回カリキュラム委員会資料（2023 年 7 月 25 日）

2. 教育プログラム

教育プログラムにおける本学の特色としては、科目とコンピテンシー、マイルストーンの関連が整理されていること、学修ポートフォリオシステムなどの ICT が導入されていること、全ての学年で行動科学を学修するカリキュラムが設定されていること、統合教育が行われていること、および卒業時のコンピテンシーと臨床研修の到達目標との関連を示し、教育担当者間で協議が行われていることなどが挙げられる。一方で、基本的水準における「改善のための助言」で指摘された、「将来の医師像を意識させ、学生の学修意欲を刺激する教育」「より多くの学生が医学研究に参加できるカリキュラム」「臨床実習における EBM 教育」「臨床医学を修得し応用するための基礎医学の学修内容や教育方略」「臨床技能を習得するために実践機会の確保」「臨床現場で患者と接する教育プログラム」「診療参加型実習の充実」「講習会への学生の参加」および「教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会による教育カリキュラム管理」などの点について改善に取り組んでいる。また、質的向上のための水準における「改善のための示唆」で指摘された、「生涯学習の資質・能力を獲得するカリキュラムの設定」「研究プロジェクトへ学生が参加できる科目設定」「社会のニーズや文化の変化に対応したカリキュラム調整」「臨床実習前からの段階的な患者への接触と臨床実習における診療への参画」「診療参加型実習の進行に合わせた実習の順序や期間の見直し」「6 年間のカリキュラムにおける水平的および垂直的統合」「教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会が統括する教育カリキュラムの実施」「地域や社会の意見を取り入れた教育プログ

ラムの改良と実施」などの点についても引き続き取り組むべき課題といえる。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

科目とコンピテンシー、マイルストーンの関連が整理されている。

学修ポートフォリオ「Prime Learning®」を導入し全科目で使用されている。

改善のための助言

試験や課題による学修支援だけではなく、将来の医師像を意識させ、学生の学修意欲を刺激する教育を提供すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学では、毎年、全ての科目においてコンピテンシーを再確認し、全学年にわたるマイルストーンとロードマップを作成することで、カリキュラムの修得目標を明確に定めている。また、講義・実習では ICT (Blackboard LMS®, Campus Square®, Prime Learning®, CC-EPOC など) の活用を積極的に推進している。2023 年度からは、これらの ICT を用いた学修ポートフォリオを導入し、各学生が目標の設定、修得目標の達成度についての自己評価、および設定した目標に対しての振り返りを行い、各学生の担当教員が指導・支援を行っている(資料 2-01)。これらのシステムの連携を進めており、学生および教員が使いやすい機能の充実・改善を図っている。また、低学年から段階的に症候学や診断学を学ぶ『診断学・臨床推論 I~V』科目では、グループ学修やシミュレーション学修などを推進している。これらの取り組みにより、学生の学修意欲をさらに刺激することを目指している。2023 年度に発足したカリキュラム委員会からは授業時間の短縮、active learning のさらなる活用の提案と検討が進められている。

将来の医師像を意識させ、学生の学修意欲を刺激する教育を提供するために、入学直後に始まる『プロフェッショナリズム I』においては、医師が社会に貢献する具体的な活動場面を取りあげながら、医師としてのプロフェッショナリズムの基本原則(卓越性、ヒューマンイズム、利他主義、説明責任)や責務について理解を深めるための講義・演習・実習を行っている(資料 2-02)。さらに、第 2 学年で行う『プロフェッショナリズム II』では、高齢者施設訪問を通して、高齢者とのコミュニケーションを図ると同時に、その身体的・精神的特徴、認知症、日本人の死生観・QOL・延命治療、および高齢者福祉などについても学ぶことで、さらなる学修意欲の向上に繋がるカリキュラムを提供している(資料 2-03)。新型コロナウイルス感染症の収束傾向を受け、2023 年度からは訪問施設が拡大された(資料 2-04)。また、第 1 学年から第 3 学年を対象にした本学卒業生による講演や、第 4 学年を対象にした本学上級生(第 6 学年)および卒業生による講演の機会をさらに充実させ(資料 2-05)、「将来の医師像」を意識させることで学修意欲の向上を図っている(資料 2-06)。カリキュラム委員会からの提案で 2024 年度入学者に対し新入生オリエンテーションを新規導入することとなり、医学部での学修姿勢および医療者としての意識づけ、連帯感や愛校心を涵養するためのグループワークやキャンパス・病院ツアーを行う計画を進めている。プロフェッショナリズム教育

のさらなる充実を目指し、1年から4年の全学年における縦断科目化も検討している。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-01：2023 年度 2 年生学修ポートフォリオ説明資料

資料 2-02：2023 年度『プロフェッショナリズム I』シラバス

資料 2-03：2023 年度『プロフェッショナリズム II』シラバス

資料 2-04：2023 年度『プロフェッショナリズム II』（高齢者ふれあい実習配置表）

資料 2-05：2023 年度医学部 4 年生 BSL ガイダンススケジュール

資料 2-06：2023 年度スチューデントドクター（SD）認証式・BSL ガイダンス・ポストアンケート

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

学生が生涯学び続ける必要性をさらに自覚し、生涯学習の資質・能力を獲得するカリキュラムの設定が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

基礎医学における生涯学習としては、第 1 学年における『生命科学実験 I・II』や第 2 学年における『統合実習』で基礎研究の実験手法を学びながら実験手法や問題解決能力の修得を推進する（資料 2-07～09）。今後さらに「研究室配属」を拡大・推進し、基礎医学および臨床医学研究における資質・能力を獲得することを目指す。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-07：2023 年度『生命科学実験 I』シラバス

資料 2-08：2023 年度『生命科学実験 II』シラバス

資料 2-09：2023 年度『統合実習』シラバス

2.2 科学的方法

基本的水準 判定:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

より多くの学生が医学研究に参加できるカリキュラムを提供すべきである。
臨床実習で EBM を活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

低学年からの「研究室配属」をさらに推奨し、基礎医学および臨床医学の研究に触れる機会を設ける。低学年の時間割を見直し、研究活動に参加可能な時間（週1日午後）を設け、各学生が参加しやすいカリキュラムに変更した（資料2-10）。

EBM教育としては、第1学年における『医療統計学』や『医学序論総合演習』、第2学年における『統合実習』や『基礎医学臨床医学統合演習』、第3学年における『衛生学公衆衛生学』や『診断学・臨床推論II・III』などの講義・実習でEBMについての基本的事項を学修し、第4学年での『診断学・臨床推論IV・V』や第4・5・6学年での臨床実習（BSL/BSC）においてもEBM教育を行っている。

特に、EBM教育に寄与するため、2024年度より医療情報データベースを導入して、臨床実習等の教育に活用することを計画している。

また、BSLガイダンスや臨床実習部会でもEBM教育の実践を推進している。また、2023年度も継続的に各講義科目責任者やBSL実習実施責任者にアンケートを行い、「医学における最新・最先端の話題」、「現在ないし将来社会や医療システムにおいて必要となると予測される内容」、さらにEBMの考え方や取り組みが各科目の授業や各診療科の臨床実習においてどの程度取り入れられているかを把握している（資料2-11）。

改善状況を示す根拠資料

資料2-10：2023年度時間割

資料2-11：2023年度最新・最先端など授業への組み込みに関するアンケート（2023年5月8日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

分析的で実験的な研究を含む研究プロジェクトに学生が参加できる科目を設定することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

希望者を対象に基礎および臨床医学講座で行っている「研究室配属」をさらに拡大し、科目設定に向けた検討・準備を行っている。研究室制度に興味がある全ての学生に情報を得やすくするため、LMSにて研究室配属コースを設定し、基礎、臨床の各教室の研究内容、連絡先等の掲載を開始した（資料2-12）。さらに、2023年度から新たに、溝口分院から泌尿器科が、また本学先端総合研究機構からも4研究室が受け入れに参加した。配属を希望する学生も増えることが期待される。

改善状況を示す根拠資料

資料2-12：2023年度医学部研究室配属

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

臨床医学を修得し応用するために、基礎医学の学修内容や教育方略をさらに充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

第1学年から基礎医学系科目として『解剖学』『生化学』『生理学』、および『微生物学入門』が組み入れられており、医学を学ぶ上での基礎知識を身につけている(資料2-10)。第1学年後期には解剖学実習も行われている。さらに、第2学年では疾病の原因・病態を『微生物学I・II』や『病理学』で学び、薬物の基本的作用を『薬理学』で学修し、また『法医学』において死因の医学的解明、および科学的に公正な医学的判断について学んでいる。基礎医学の総論的な内容は、『薬理学』や『病理学』でも学修する一方、各論的な内容は、分野別に8科目に分割された『基礎医学統合講義(内分泌・代謝・消化器、呼吸・腎・体液、血液・循環・心臓、遺伝・遺伝子I、遺伝・遺伝子II、神経、免疫、腫瘍)』で学修し、微生物学(各論)については『微生物学I』(主に細菌、真菌)と『微生物学II』(主にウイルス、寄生虫)で学修している。これらの科目で修得した基礎医学に関する学修内容は、その後の第3学年での臨床医学系講義に引き継がれている。

各科目においては、将来臨床応用されるであろう最先端の基礎医学研究の基本的な概念とその手法を理解することを目的として、「科学、科学技術あるいは臨床医学の進歩」や「最新・最先端の話題」を積極的に取り入れるよう各科目責任者に促し(資料2-13)、その内容については定期的な調査で確認している(資料2-11)。基礎医学系講義においては、臨床医学を修得し応用するための内容を積極的に取り上げるとともに、新たな教育方略として「研究室配属」を推進しさらに発展的な教育を目指している。

改善状況を示す根拠資料

資料2-10：2023年度時間割

資料2-13：2023年度シラバス作成のためのガイドライン

資料2-11：2023年度最新・最先端など授業への組み込みに関するアンケート(2023年5月8日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

定期的に科目責任者に対して行われているアンケート調査の結果(資料2-11)を踏まえ、必要と思わ

れるカリキュラムの内容についてはシラバス作成時に教務部長から各科目責任者へ改善を促す。なお、各科目で作成されたシラバスは教務委員会に属する各学年主任が確認し必要に応じて科目責任者に内容の修正・再検討を依頼する。特に、「科学、科学技術あるいは臨床医学の進歩」、「最新・最先端の話題」、および「EBM」については積極的に取り入れるよう各科目責任者に促す。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-11：2023 年度 最新・最先端など 授業への組み込みに関するアンケート(2023 年 5 月 8 日)

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

全ての学年で行動科学を学修するカリキュラムが設定されている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

行動科学系科目コーディネータ、社会医学系科目コーディネータ、医療倫理学系科目コーディネータおよび医療法学系科目コーディネータが、全学年の担当科目について医学部の各科目のシラバスを定期的に点検し、教務委員会に学修内容の網羅性に関して報告し、必要に応じてカリキュラム内容の改善を図っている(資料 2-14)。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-14：2023 年度第 12 回教務委員会議事録(2024 年 3 月 4 日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

医学部として社会のニーズや文化の変化を把握し、それに対応しカリキュラムを定期的に調整・修正することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

社会のニーズや文化の変化に対応したカリキュラムを設定し、定期的に内容の調整・修正を図っていくために、2023 年度においても行動科学系科目コーディネータ、社会医学系・医療倫理学系科目コーディネータおよび医療法学系科目コーディネータが、全学年の行動科学系科目について医学部の各科目のシラバスを定期的に点検した上で、教務委員会に報告し、必要に応じてカリキュラム

内容の改善を図っている（資料 2-14）。2023 年度においては、第一学年『プロフェッショナルリズム I』の中で、「感染防御」「ライフワークバランス」「危険ドラッグ」、および「メンタルヘルス・ストレスコーピング」などの話題を取り上げた（資料 2-02）。キャリア教育については、板橋キャンパス医療系 3 学部第 1 学年を対象とした合同講義『医療界のワーク・ライフ学』において、本学で行われている「子育て世代の医療職支援事業（文部科学省女性研究者研究活動支援事業）」を取り上げている（資料 2-15）。また、医学生・研修医向け講演会・座談会を行うとともに教職員向け座談会への学生らの参加拡大を推進している（資料 2-15）。また、BSL で行われる『地域医療実習』では、43 の医療施設（2023 年度）において外来診療、訪問（在宅）診療やチーム医療などを学修した（資料 2-16）。実習後には、受け入れ医療施設との教育ワークショップや情報交換会を開催すると同時に、アンケートを行い実習の改善を図っている（資料 2-17、18）。また、第 5 学年で行われる『衛生学公衆衛生学実習』では、ベトナムでの病院実習を通して現地の感染症問題について学修した（資料 2-19）。同実習「デジタル予防医療」では、医療現場のデジタル化によって、医療の在り方を変化させる「医療 DX」についても学修した（資料 2-20）。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-14：2023 年度第 12 回教務委員会議事録（2024 年 3 月 4 日）

資料 2-02：2023 年度『プロフェッショナルリズム I』シラバス

資料 2-15：2023 年度 子育て世代の医療職支援事業 実施報告書

資料 2-16：2023 年度『地域医療実習』実習先一覧

資料 2-17：2023 年度地域医療実習ワークショップ案内

資料 2-18：2023 年度地域医療実習ワークショップアンケート

資料 2-19：2023 年度『衛生学公衆衛生学実習』（ベトナムにおける感染症）

資料 2-20：2023 年度『衛生学公衆衛生学実習』（デジタル予防医療）

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

学生全員が必要な臨床技能を習得できるように、実践の機会を確保すべきである。

臨床現場で患者と接する教育プログラムを十分に確保すべきである。

重要な診療科では、一診療科あたり十分な実習期間を確保すべきである。

学生によるカルテ記載に対し、指導医が確実に確認し、診療参加型診療実習を充実すべきである。

医療安全講習会や院内感染対策講習会などへの学生の参加を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「学生全員が必要な臨床技能を習得できるように、実践の機会を確保すること」について、診療

参加型臨床実習指導者講習会でワークショップを行い、改善案について検討した(資料 2-21)。今後、臨床実習 (BSL/BSC) 部会などで実習内容を見直し、診療参加型臨床実習を推進していく。2024 年 2 月の同講習会では各診療科における学生が担う役割・業務の抽出と基本的臨床手技マトリックスの作成を行い、診療参加型臨床実習の具体的な改良に向けて準備を進めている。

「臨床現場で患者と接する教育プログラムを十分に確保すべきである。」については、第 1 学年『プロフェッショナルリズムⅠ』での「早期臨床体験実習」、第 2 学年『プロフェッショナルリズムⅡ』での「高齢者施設訪問」、および第 3 学年での「外来エスコート実習」において患者と接する機会をさらに充実させるよう検討していく。特に「外来エスコート実習」については今後新たなカリキュラムとして必修化に向けて準備(部会の設置等)を進めている(資料 2-22)。また、臨床実習 (BSL/BSC) および『衛生学公衆衛生学実習』においても患者と接する機会を充実させるよう検討する。

「重要な診療科では、一診療科あたり十分な実習期間を確保すること」については、今後、総合診療科の診療期間を「原則 3 週間以上」、また、精神科については「連続 3 週間以上」となるよう BSL 期間の再配置についてカリキュラム委員会を中心に検討していく(資料 2-23、24)。

「学生によるカルテ記載に対し、指導医が確実に確認し、診療参加型臨床実習を充実すること」については、本学教員を対象とした診療参加型臨床実習指導者講習会において、受け持ち患者の学生記録(カルテ形式)を指導医が確認し指導するよう説明した上で、「診療参加型実習で学生が担うことのできる役割」についてグループワークを行った(資料 2-25)。また、第 4 学年を対象とした BSL ガイダンスにおいては、診療録記載演習および診療録記載・電子カルテの使い方について説明を受けた後に電子カルテの操作について個別指導を継続して行っている(資料 2-05)。今後、指導医の確認を徹底する必要がある。

「医療安全講習会や院内感染対策講習会などへの学生の参加を促すこと」については、本学附属病院(板橋)で定期的に開催される「研修医連絡会」の中で行われている「医療安全セミナー」への学生参加を臨床実習 (BSL/BSC) に取り入れると同時に、第 4 学年を対象とした BSL ガイダンスで本学職員が入職時に受講する「職員研修会」での感染対策についての動画を視聴し、その後に視聴確認テストを受けることとした(資料 2-26)。また、本学附属病院(板橋、溝口、ちば)で行われる臨床実習 (BSL/BSC) における包括同意説明文書の改訂を行い、安全対策の充実を図った(資料 2-27)。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-21 : 2022 年度診療参加型臨床実習指導者講習会開催案内

資料 2-22 : 2023 年度第 1 回エスコート実習部会議事録 (2023 年 7 月 24 日)

資料 2-23 : 2023 年度第 1 回医学部内部質保証評価会議 カリキュラム委員会報告 (2023 年 7 月 19 日)

資料 2-24 : 2023 年度第 1 回カリキュラム委員会議事録 (2023 年 7 月 21 日)

資料 2-25 : 2022 年度診療参加型臨床実習指導者講習会資料 診療参加型臨床実習の主旨と学修目標 および学生が担うことのできる役割

資料 2-05 : 2023 年度医学部 4 年生 BSL ガイダンススケジュール

資料 2-26 : 2023 年度教務委員会執行部会議事録 (2024 年 1 月 22 日)

資料 2-27 : 包括同意説明文書 2023 年度改訂版

質的向上のための水準 判定:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

臨床実習前教育において、段階的に患者との接触を深め、4年次からの臨床実習ではより診療への参画を前提としたカリキュラムにすることが望まれる。

診療参加型臨床実習の進行に合わせ、診療科で実習を行う順序、期間を含めた教育計画を見直すことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「臨床実習前教育において、段階的に患者との接触を深め、4年次からの臨床実習ではより診療への参画を前提としたカリキュラムにすること」については、第1学年『プロフェッショナリズム I』での「早期臨床体験実習」、第2学年『プロフェッショナリズム II』での「高齢者施設訪問」、および第3学年での「外来エスコート実習」において段階的に患者との接触の機会をさらに充実させていく。なお、「外来エスコート実習」については、エスコート実習部会を設け、カリキュラム必修化に向けて検討を開始している（資料 2-22）。

「診療参加型臨床実習の進行に合わせ、診療科で実習を行う順序、期間を含めた教育計画を見直すこと」については、第4学年から第5学年で行われる臨床実習（BSL）において診療参加型実習の進行に合わせた診療科ローテーションの組み替えについてカリキュラム検討部会で検討中である（資料 2-28）。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-22：2023 年度第 1 回エスコート実習部会議事録（2023 年 7 月 24 日）

資料 2-28：2023 年度第 10 回カリキュラム検討部会議事録（2024 年 3 月 9 日）

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準 判定:適合

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各カリキュラムの内容については、2023 年度からカリキュラム委員会で継続的に確認・検討し、講義に最新の内容を取り入れるとともに、基礎医学、社会医学、および臨床医学の水平的・垂直的統

合を推進していく（資料 2-23、24）。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-23：2023 年度第 1 回医学部内部質保証評価会議 カリキュラム委員会報告（2023 年 7 月 19 日）

資料 2-24：2023 年度第 1 回カリキュラム委員会議事録（2023 年 7 月 21 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

第 2 学年における「基礎医学統合講義」、「基礎医学臨床医学統合演習」で統合教育が行われている。

改善のための示唆

6 年間のカリキュラムにおいて、領域、課題の水平的および垂直的統合を確実に実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

第 2 学年『基礎医学統合講義』では、基礎医学の各論的な内容を『免疫』『内分泌・代謝・消化器』『呼吸・腎・体液』『血液・循環・心臓』『遺伝・遺伝子 I』『遺伝・遺伝子 II』『神経』『腫瘍』の 8 つに分け、それぞれの講義の中で基礎医学・臨床医学の内容を水平的に統合した授業内容となっている（資料 2-29～36）。また、『基礎医学臨床医学統合演習（TBL）』（資料 2-37）や臨床実習（BSL）中に行われるクルーズにおいても基礎医学的知識から臨床医学へ繋がる垂直的統合が図られた内容となっている。今後は、全学年を通して継続的に水平的・垂直的統合が図られるよう検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-29：『基礎医学統合講義（遺伝・遺伝子 I）』シラバス

資料 2-30：『基礎医学統合講義（遺伝・遺伝子 II）』シラバス

資料 2-31：『基礎医学統合講義（血液・循環・心臓）』シラバス

資料 2-32：『基礎医学統合講義（呼吸・腎・体液）』シラバス

資料 2-33：『基礎医学統合講義（腫瘍）』シラバス

資料 2-34：『基礎医学統合講義（神経）』シラバス

資料 2-35：『基礎医学統合講義（内分泌・代謝・消化器）』シラバス

資料 2-36：『基礎医学統合講義（免疫）』シラバス

資料 2-37：『基礎医学臨床医学統合演習（TBL）』シラバス

2.7 教育プログラム管理

基本的水準 判定:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会を明確にし、6年間のカリキュラム全体を俯瞰してコントロールすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023年度に医学部教学体制を刷新し、教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会を明確にした(資料2-38)。これにより、各委員会は医学部教育関係運営会議の下で教育プログラムの立案と実施に関わる組織として改善された。

改善状況を示す根拠資料

資料2-38：2023年度教学体制図

質的向上のための水準 判定:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

カリキュラムに責任と権限を持つ委員会が6年間の教育カリキュラム全体を俯瞰して教育改善を立案し、確実に実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023年度からは、基礎および臨床医学の医学部教員からなるカリキュラム検討部会が中心となって6年間の教育カリキュラムについて改善案を提示し、本学他学部教員や医学部学生も参加するカリキュラム委員会で検討された後に、医学部教育関係運営会議で決定される教学体制となった(資料2-38)。これにより本学医学部の教育カリキュラム全体を俯瞰できるようになり、教育カリキュラムの立案・改善から実施の推進が図られた。

改善状況を示す根拠資料

資料2-38：2023年度教学体制図

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準 判定:適合

特記すべき良い点(特色)

卒業時のコンピテンシーと臨床研修の到達目標との連携を示し、教育担当者間で協議が行われている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床研修センター・医学教育センター協議会において「卒前と卒後の教育・臨床実践の連携」や「研修医または専攻医による学生支援」などについて協議し、卒前卒後の連携を図りながら今後も連携を継続していく。具体的成果の一例として、2.5で「改善のための助言」として指摘された「臨床実習医学生の医療安全講習会等への参加」の実現のため本協議会で審議を重ね、附属病院で毎月開催される臨床研修医向けの「医療安全セミナー」に臨床実習医学生が参加できるように臨床実習プログラムの一部が調整された（資料 2-39）。これにより臨床実習前-臨床実習-臨床研修の一貫性のある、Knows how から Does へ至る患者安全教育が推進されることが期待できる。また、卒前教育と卒後の教育・臨床実践の連携を図るため、学生が本学附属病院に勤める医師（本学卒業生）に学修プログラミングなどについて直接相談できる「学生アドバイザー制度」を設けている。

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

カリキュラムに責任と権限を持つ委員会が、地域や社会の意見を取り入れ、教育プログラムの改良を確実に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

第5学年BSL『地域医療実習』においては、地域医療の仕組み、地域医療機関や医師会の役割、多職種連携によるチーム医療、医療機関の経営と保険診療、地域特性による医療需要の多様性などに関する理解を深めることを目的としている。現在、本実習先としては本学ちば総合医療センター（千葉県市原市）、本院（板橋区）近隣の医療機関に加え、他県（埼玉県、群馬県、長野県、北海道など）にも拡大している（資料 2-16）。実習内容としては、新型コロナワクチン接種会場への同行、産業医業務見学、訪問診療、デイサービス・特別養護老人ホーム訪問、歯科との連携、リハビリテーション見学、栄養科見学、一般内科外来、発熱外来、問診・診察、血液透析見学、入院患者の入浴介助・口腔内ケアなどが含まれており、実践的な地域医療や社会のニーズを反映させた学修内容となっている（資料 2-40、41）。また、2022年度に始まった第5学年BSL『地域医療実習（精神科）』では、地域における中核的医療機関での実習を通して精神科領域の急性期医療からリハビリテーションなどの長期的な精神医療まで幅広く学修する機会を設けている（資料 2-42）。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-16：2023 年度『地域医療実習』実習先一覧

資料 2-39：臨床研修センター・医学教育センター協議会 議事録（2024 年 8 月 28 日 1 月 30 日、2 月 23 日）

資料 2-40：精神科地域医療実習について（地域医療実習に関する教育ワークショップ資料）

資料 2-41：2023 年度『地域医療実習（精神科）』振り返り

資料 2-42：2023 年度『衛生学公衆衛生学実習』シラバス

3 学生の評価

領域 3 において、質的向上のための水準における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、まず、知識以外の評価の確実な実施のため、低学年の実習におけるルーブリック評価の標準化や高学年の評価における CC-EPOC の利用率向上を図り、これを使用した評価の標準化が重要な課題である。また、評価方法の信頼性を具体的な統計手法で確認のうえ、その向上に努めている。さらには、コンピテンシー A を達成していることを保証する新たな評価方法の構築や、評価結果に基づいた学生へのフィードバックについても、実施の現状を確認しその最適化を図っている。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

学生の評価について、原理、方法及び実施を定め、開示している。

定期試験問題に関して、他の教員によるピア評価を行っている。

全科目で予習・復習テストを実施し、解答を示して解説が行われていることは評価できる。

改善のための助言

知識以外の技能・態度の評価を確実に実施すべきである。

定期試験、総合試験、卒業試験について疑義申し立て制度をより充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「知識以外の技能・態度の評価を確実に実施するべきである。」について、本学で利用を開始している CC-EPOC システムは、とくに高学年の実習において技能・態度評価に有用であるが、まだ十分に活用されていない。今後、広く利用を推進していくため、現在の利用率の把握および利用向上のための施策を検討することとしている（資料 3-01～05）。利用率向上やその利用方法に関して、臨床実習部会を中心に、臨床実習生と教員へのガイダンス、フィードバックの共有、活用シーンの提案など活用推進の取り組みを進めている（資料 3-06～10）。また、低学年の実習などでは技能評価にルーブリック評価を採用しているが、各実習などで基準などにばらつきがある。実態の把握および、適切な評価の提案と標準化を検討する。2023 年度は、医学部 2 年生の統合実習において、その評価法の実態の把握を行った（資料 3-11）。今後もルーブリック評価の標準化について、議論を進める。

「定期試験、総合試験、卒業試験について疑義申し立て制度をより充実させるべきである。」について、まずは認知度の向上を図る。IR・医学教育評価室が行っている学生へのアンケートにて認知度を把握し、その後担任制度・ホームルームなどで積極的に疑義申し立て制度の紹介を行う。2023 年度は、学生委員会において各学年ホームルームでの学生に向けての周知を依頼、実行した（資料 3-

12、13)。以後、年ごとにアンケート結果を確認し認知度の向上を確認する。また、疑義申し立て制度に対する学生からの評価および改善案に関する意見を集め、疑義申し立て制度の充実を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料 3-01：2023 年度 2 年生調査

資料 3-02：2023 年度 3 年生調査

資料 3-03：2023 年度 4 年生調査

資料 3-04：2023 年度 5 年生調査

資料 3-05：2023 年度 6 年生調査

資料 3-06：2023 年度第 1 回臨床実習部会議事録（2023 年 3 月 15 日）

資料 3-07：2023 年度第 2 回臨床実習部会議事録（2023 年 4 月 19 日）

資料 3-08：2023 年度第 7 回臨床実習部会議事録（2023 年 9 月 20 日）

資料 3-09：2023 年度第 9 回臨床実習部会議事録（2023 年 11 月 15 日）

資料 3-10：2023 年度第 10 回臨床実習部会議事録（2023 年 12 月 13 日）

資料 3-11：2023 年度 2 年生基礎統合実習責任者会議議事録（2023 年 12 月 20 日）

資料 3-12：2023 年度第 6 回学生委員会会議議事録（2023 年 9 月 27 日）

資料 3-13：1 学年 HR 資料（2023 年 8 月 23 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

新しい評価方法として、2021 年度から臨床推論能力試験として「Script Concordance Test」を試みている。

改善のための示唆

評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。

Mini-CEX、360 度評価などの評価を充実することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。」について、具体的な数値による検証を行う。信頼性に関しては、結果の再現性などの評価を、妥当性については、特に内容および基準関連の妥当性の検証を行う。2023 年度は臨床実習部会および IR・医学教育評価室にて、検証法についての検討を行っている（資料 3-06～10）。

「Mini-CEX、360 度評価などの評価を充実することが望まれる。」について、Post CC-OSCE までに mini-CEX を確実に繰り返し施行し、形成的評価が一定水準に達するまで指導を継続することとし、まずは mini-CEX および CC-EPOC の概要を FD で教員に周知した（臨床実習中の到達度評価、中間試験など）（資料 3-14）。

改善状況を示す根拠資料

資料 3-06：2023 年度第 1 回臨床実習部会議事録（2023 年 3 月 15 日）
資料 3-07：2023 年度第 2 回臨床実習部会議事録（2023 年 4 月 19 日）
資料 3-08：2023 年度第 7 回臨床実習部会議事録（2023 年 9 月 20 日）
資料 3-09：2023 年度第 9 回臨床実習部会議事録（2023 年 11 月 15 日）
資料 3-10：2023 年度第 10 回臨床実習部会議事録（2023 年 12 月 13 日）
資料 3-14：2023 年度 医学教育 FD（臨床実習指導医向け：学修評価）資料（2024 年 2 月 17 日）

3.2 評価と学修との関連

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

卒業時に目標とする学修成果であるコンピテンシーの「Level A」を学生が達成していることを保証する評価システムを構築すべきである。

適切な回数と内容で学生の学修を促進する評価を実施すべきである。

形成的評価を充実させ、マイルストーンなどを含む学修成果の達成度を適切に評価すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業時に目標とする学修成果であるコンピテンシーの「Level A」を学生が達成していることを保証する評価システムを構築するために、各学年の授業・実習において到達すべきコンピテンシーレベルと各科目の評価との紐づけし、授業・実習評価を到達度評価とみなし、また学生にも把握し理解を求めている。シラバスに各学年における到達すべきコンピテンシーレベルについては記載をしている（資料 3-15、16）。

適切な回数と内容で学生の学修を促進する評価を実施することに向けて、学生の試験回数に対する意見を確認し、適正な回数について検討を行った（資料 3-17）。今後も引き続き、学生からのフィードバックを受け、検討を重ねていく予定である。

形成的評価を充実させ、マイルストーンなどを含む学修成果の達成度を適切に評価するために、まずは形成的評価の内容、学修成果の達成度評価を記録に残すこととした。また学修ポートフォリオを用い、担任面談の中で達成度の確認および評価を検討する方針とし、2023 年度は、学修ポートフォリオの学生および教員へその使用について、担任会議やホームルームにて周知を行い、使用率向上に努めた（資料 3-18～21）。

改善状況を示す根拠資料

資料 3-15：2023 年度『総合内科実習』シラバス 到達目標他
資料 3-16：2023 年度『臨床薬理学』シラバス 到達目標
資料 3-17：2024 年 2 月カリキュラムに関するアンケート分析
資料 3-18：2023 年度第 1 回 1 学年担任会議議事録（2023 年 9 月 6 日）
資料 3-19：学修ポートフォリオシステム説明資料（2023 年 6 月実施）

資料 3-20：学修ポートフォリオ学生マニュアル

資料 3-21：学修ポートフォリオ活用ガイド

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

評価結果に基づいて、個々の学生に対して適切なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

評価結果に基づいて、個々の学生に対して適切なフィードバックを行うために、担任との面談において、年度末など試験結果、実習評価結果が得られたのちに、これらの結果に基づいた面談を行い、個々の学生に対して適切なフィードバックを行うこととした。教務委員会より各担任に年複数回の学生との個人面談を行うよう依頼し、実際に学生に対するフィードバックを開始し、その内容については教務課にて一括で管理を行っている（資料 3-22、23）。

改善状況を示す根拠資料

資料 3-22：2023 年度秋期担任面接依頼文

資料 3-23：2023 年度版担任面談実施報告書書式

4 学生

「改善のための助言」や「改善のための示唆」を踏まえ、学生を対象とした学修支援やカウンセリングをより拡充し、法改正に伴い障がい学生への支援体制を拡充した。また地域枠学生のキャリア支援体制を確立した。「改善のための助言」を受けて、委員会に参加する学生代表が実質的に議論に加わるよう改善している。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023 年度入試より定員 116 名の内訳を学校推薦型選抜 15 名、一般選抜 93 名（特別地域枠 7 名含む）、共通テスト利用選抜 8 名に変更した（資料 4-01～04）。改正された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が 2024 年 4 月に施行され障害者への合理的配慮が義務化されるのに伴い、

障がい学生への支援体制を拡充した(資料 4-05)。学長が「帝京大学 障がい学生の支援に関する規程」と「障がい学生の差別解消に関する相談および問題解決手続きガイドライン」を制定し、受験生は帝京大学入試センター、学生は学生支援室を相談窓口として相談員を配置した。

)

改善状況を示す根拠資料

資料 4-01：入学試験要項 2023（年内入試用）

資料 4-02：入学試験要項 2023（年明け入試用）

資料 4-03：入学試験要項 2024（年内入試用）

資料 4-04：入学試験要項 2024（年明け入試用）

資料 4-05：帝京大学障がい学生支援に関する規程（2023 年度第 9 回医学部教授会資料）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

入学決定に対する疑義申し立て制度を採用し、開示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学決定に対する疑義申し立て制度の採用と開示について、2024 年度入試委員会にて検討が行われ、異議申し立て制度は設けず、個人の成績に関しては機密事項として開示を行わない、との大学の方針を確認した。本学発行の入試資料データブックにて、個人を特定しない形で受験者数・合格者数・競争率・合格者最高点・最低点などのデータ公表を引き続き行い、透明性を確保することとした（資料 4-06）。

改善状況を示す根拠資料

資料 4-06：第 1 回 2024 年度入試検討会議事録（2023 年 2 月 14 日）

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023年度は募集定員116名に対して1名多い入学者数となった(資料4-07)。2023年度より医学教育学講座(講座定員3名)が新設されて教育資源の拡充もされた(資料4-08)。2024年度地域枠入試は茨城県が恒久定員1名に加えて臨時定員1名の追加があり、新たに新潟県地域枠臨時定員1名が増設され、全地域枠入試の定員は2名増の9名となった(資料4-09~11)。

改善状況を示す根拠資料

資料4-07:2023年度教務委員会執行部会議議事録(2023年4月10日)

資料4-08:医学教育学講座教員・その他の2023年度の教育関係への関与(2023年度第1回教務委員会資料)

資料4-09:令和6年度の医学部臨時定員増について(2023年度第5回教授会資料)

資料4-10:2023年度の医学部入学定員および募集人員について(2022年11月)

資料4-11:2024年度医学部入学試験について(2023年11月1日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

福島県、千葉県、静岡県、茨城県の要請に応え、地域枠入試を実施している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「地域枠入試」が地域医療を担う人材育成を果たしたことの検証として、2020年度から開始した初期研修医と指導医を対象に行う「卒業生臨床能力調査」の結果を参考にしていたが、地域枠入試学生・卒業生の進路を追跡する調査を準備している。「地域枠入試」において志望動機や資質をより適切に評価できる選抜方法を検討するため、面接を担当した教員に対して実態調査を実施した(資料4-12)。

改善状況を示す根拠資料

資料4-12:2024年度地域枠入試面接後のアンケート(2024年2月)

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

担任教員制度などで、継続的に学生の学修進度や生活全般を把握し、きめ細かな支援を行っていることは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学修支援のカウンセリングを持続的継続努力として、担任制度を継続している。教務委員会は、すべての学年に担任を学生1人あたり4名から10名の担任教員をあて年間に2度の面談を義務づけている。担任の情報共有と学生指導の意識統一の目的で担任会議を1年から4年まで実施した（資料4-13～16）。学年主担任が中心となり、2023年度に3年生の成績下位者7名の保護者面談、4年生の成績下位者の保護者面談を実施した（資料4-17～20）。また子育て世代の医療職支援事業としてキャリア支援制度・プログラムを導入してニーズ調査を行い、講義・講演会・座談会を通じて支援制度の定着を図った（資料4-21）。

改善状況を示す根拠資料

資料4-13：2023年度第1回1学年担任会議議事録（2023年9月6日）

資料4-14：2023年度第1回2学年担任会議議事録（2023年7月27日）

資料4-15：2023年度第1回3学年担任会議議事録（2023年6月6日）

資料4-16：2023年度第1回4学年担任会議議事録（2023年12月9日）

資料4-17：2023年度3年生保護者面談報告書

資料4-18：2023年度4年生保護者面談報告書

資料4-19：担任制度を活用したCBT対策（2020-2022年度）保護者面接の試験的实施

資料4-20：担任制度を活用したCBT対策（2021-2023年度）保護者面接

資料4-21：2023年度子育て世代の医療職支援事業実施報告書

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

地域枠学生へのさらなるキャリア支援が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

評価書の指摘を踏まえ、地域枠学生のキャリア支援を強化した。2023年度から地域枠学生と地域枠卒業生間の親睦を深め、情報交換をし、地域医療貢献の意識を高める目的で地域枠奨学生懇話会を年に2度（春と秋）学生部主催で開催した（資料4-22、23）。すべての地域枠学生に対して、学生委員会の教員が年に3回面談し学修上生活上の相談にのる体制を2023年から開始した。地域枠学生の面談や指導のためのマニュアルを作成し学生委員会の教員の間で共有した（資料4-24）。

改善状況を示す根拠資料

資料4-22：2023年度第1回地域枠学生懇話会報告書

資料4-23：2023年度第2回地域枠学生懇話会報告書

資料4-24：地域枠の学生面談FAQ

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

委員会に参加する学生代表が、より実質的に議論に加わるべきである。

教育プログラム評価を行うとされる自己点検・自己評価委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

委員会への学生の参加に関しては、進級、成績、個人情報保持の点から学生の同席が適切でない議題を除いて、学生がより実質的な議論ができるよう進行を改善した。2023年度は教務委員会に4名、学生委員会に3名、臨床実習部会に3名、カリキュラム委員会に4名、教育プログラムの評価のために新設した教育プログラム評価会議に2名の学生が委員として参加した(資料4-25)。学生の委員の選出には、教員推薦のみならず学生の自薦他薦の方式も採用した。

改善状況を示す根拠資料

資料4-25：2023年度医学部関係委員会名簿

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

COVID-19の影響を受けて対面での交流ができない時に、オンライン形式で学年を超えた交流会を行っている。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023年5月に1年生と2年生の交流会を実施した。1年生の参加者が少数だった点を改善するため2024年から入学時のガイダンスに1年生2年生交流会を組み込み、1年生全員参加にする方針とした(資料4-26、27)。「社会活動・地域の医療活動・ボランティアなど授業とは離れた学生の自主的な活動の活性化」に関してはコロナもあり数年進捗がなかった。2024年3月から北区および板橋区のボランティア募集を医学生全員にメール配信し周知させる体制を整えた(資料4-28)。

改善状況を示す根拠資料

資料4-26：2023年度1年生2年生交流会報告書(2023年5月22日)

資料 4-27：2023 年度 1 年生 2 年生交流会アンケート結果

資料 4-28：地域ボランティア募集周知メール例

5 教員

教員が教育を担当するにあたり、カリキュラム全体への理解をさらに向上すべく、FD、活動報告などの活動のモニタ、業績報告などを通して周知を図っている。医学部の使命と照らし合わせ、人事制度改革、地域医療教育を充実するための教員採用などに取り組んでいる。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

「帝京大学教育採用基準」、「帝京大学板橋キャンパス教員採用規定」に基づいて「帝京大学医学部教育採用方針」、「帝京大学医学部教員の募集と選抜方針」を策定し、教員を採用している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員における女性比率、特に上位職比率の向上を目指して、男女共同参画推進委員会において意識改革、環境整備、教育・研究力向上、女性比率向上の4分野で各ワーキンググループが活動し、大学全体におけるダイバーシティ研究環境の実現を図っている(資料 5-01)。医学部におけるさらなる女性教員の比率の上昇を目指し、女性医師研究者支援センターにて男女別・職位別教員の一覧を作成し、男女共同参画委員会等で女性の積極的採用を啓発している(資料 5-02)。

学術的、教育的、および臨床的な業績の判定水準について、内容の見直しを行いながら、これを継続していく(資料 5-03)。

教員の活動のモニタについては、2022 年度から人事制度改革が始まっており、2023 年 4 月からは医学部の臨床医学系大学教員においても新人事制度による評価を導入している(資料 5-04)。

改善状況を示す根拠資料

資料 5-01：2023 年度帝京大学男女共同参画推進委員会ワーキンググループにおける検討結果について

資料 5-02：2023 年度男女別・職位別教員の一覧表

資料 5-03：帝京大学医学部教員昇任・採用内規(2024 年 3 月 1 日)

資料 5-04：2003 年度人事評価「期初プロセス」のご案内【大学教員】(2023 年 5 月 22 日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

医学部の使命と照らし合わせ、地域医療教育を充実させるために教員を採用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

近隣の医療機関の医学教育センター臨床教授と同センター臨床准教授を増やすと共に、地域医療実習ワークショップを開催して地域医療教育に関するアウトカムやコンピテンシーの共有を図っている（資料 5-05、06）。

また、医学部の使命に照らし合わせ、地域医療教育を充実させるための教員採用を積極的に行っていく方針を教員昇任・採用内規に反映させる。

改善状況を示す根拠資料

資料 5-05：2023 年度臨床教授・臨床准教授リスト

資料 5-06：2023 年度地域医療実習ワークショップ案内

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

全教員の教育、研究、診療における教員のエフォートをモニタしている。

改善のための助言

全教員のカリキュラム全体への理解をさらに向上させて教育を担当すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育、研究、診療における教員のエフォートのモニタや学術的業績の認識については、「教員活動評価」で継続するとともに、新人事制度を導入してバランスの適正化を図っている（資料 5-04、5-07）。

教員の研究活動を教育活動に活用するために、LMS に基礎、臨床の各教室の研究内容、連絡先等を掲載し情報提供を強化し、学生の研究室配属を推進している（資料 5-08）。

各講座の主任教授が、新規に入職した教員を、入職後 3 年未満を対象とする医学教育ワークショップの参加者に指名して、カリキュラムへの理解を促進するようにしている。FD やワークショップを欠席した教員に対して、動画を LMS へアップし、各講座・診療科単位で視聴を呼び掛ける。

改善状況を示す根拠資料

資料 5-04：2003 年度人事評価「期初プロセス」のご案内【大学教員】（2023 年 5 月 22 日）

資料 5-07：2022 年度教員活動報告書教員活動エフォートまとめ

資料 5-08：医学部全学年共通掲示板：研究室の紹介

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員の昇進の方針の策定・履行については、活躍度を重視した処遇制度の実現のため、新人事制度による評価システムを導入した（資料 5-04）。

改善状況を示す根拠資料

資料 5-04：2003 年度人事評価「期初プロセス」のご案内【大学教員】（2023 年 5 月 22 日）

6 教育資源

教育資源に関する質的向上のための水準における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を踏まえ、学修成果に基づいて患者数と疾患分類を検証し、臨床実習施設を確保すること、医療を受ける患者や地域住民の要請にこたえているかどうかの視点で、臨床実習施設を評価、整備、改善することに取り組んでいる。学生が電子カルテを適切に利用できるような指導医のチェックシステムの確実な運用、および教育活動全般における教育専門家の積極的な活用に向けた取り組みを推進している。

6.1 施設・設備

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

献体法ならびに関連省令に基づいて献体の管理が適切に行われているのに加え、年 1 回のホルマリン作業環境測定でも第一区分を達成している（資料 6-01）。また、解剖実習室は酸素クラスター除菌脱臭装置と局所換気を併用することで実習期間のピーク時でも臭気が極めて少なくなるように設計されており（資料 6-02）、学生、教員の双方にとって良好な環境が提供されている。

定期的なフィルター交換（数年に 1 度）と同時に実施される解剖台の特殊清掃を継続し、実習・作業環境の維持に努める（資料 6-03、04）。また、継続的に学生や教員の意見を聴取し、施設・設備の改善を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-01：作業環境測定結果報告書（証明書）（2023 年 4 月 27 日）

資料 6-02：帝京大学医学部解剖実習室 カルモアハイブリッドシステム（2023 年 8 月 21 日）

資料 6-03：ホルマリン対策ハイブリッドシステムメンテナンス報告書

資料 6-04：解剖実習台清掃・混合栓修理報告書 2023 年 8 月 30 日

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

附属病院の各病棟に学生専用のスタッフルームを設置し、学生の学修の便宜を図っていることは評価できる。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き学生や教員の意見を聴取し、施設・設備の改善を図る。6 年生に対しては 2023 年より大学棟地下 1 階に自修スペースを確保し、学修環境の改善を図っている。また以前より学生からの要望があった休日・夜間の図書館利用については、徐々に開館時間を延長して対応している（資料 6-05、06）。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-05：2023 年度第 1 回教育資源改善検討部会議事録（2023 年 9 月 8 日）

資料 6-06：2023 年度第 2 回教育資源改善検討部会議事録（2024 年 3 月 8 日）

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

学内外の臨床実習指導者に対して、教育能力向上を目的としてワークショップを年 2 回実施している。

改善のための助言

学生が適切な臨床経験を積めるように、学修成果に基づいて患者数と疾患分類を検証し、臨床実習施設を確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

CC-EPOC により個々の学生が経験した疾患分類を把握し、学生それぞれが十分な疾患や症候を経験できるようにし、その内容をモニタしている（資料 6-07）。教務委員会臨床実習（BSL/BSC）部会

において、IR・医学教育評価室の支援のもと臨床実習施設における学修機会を把握し、さらなる充実を目指す。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-07：2022 年度卒業生調査（2023 年 3 月実施）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

医療を受ける患者や地域住民の要請に応じているかどうかの視点で、臨床実習施設を評価、整備、改善することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

患者や地域住民が参加する会議体において、臨床実習施設についての意見を聴取し、改善を図っている（資料 6-08）。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-08：2023 年度第 1 回医学部内部質保証評価会議議事録（2023 年 7 月 19 日）

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

講義を録画し、学生が自己学習用に使用できるよう動画コンテンツを整備していることは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

複数の学修支援ツールを統合して認証するシステムを導入することで、利用の利便性向上を図っている（資料 6-09）。引き続き自己学習用コンテンツの充実、整備を図る。2024 年に大学棟 5 階の各 OSCE ルームに電子黒板を設置し、チーム学修の改善を図る予定である。

改善状況を示す資料

資料 6-09：新統合認証基盤資料

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

診療参加型臨床実習において、学生が電子カルテを適切に利用できるように指導医のチェックシステムを確実に運用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

附属病院における学生の電子カルテ記載の指導医評価について担当部署と連携し、その改善を施設の目標として取り上げ、評価率の向上を目指している（資料6-10、11）。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-10：2023 年度第 1 回診療情報管理委員会議事録（2023 年 6 月 8 日）

資料 6-11：学生記録の指導医承認件数・承認率

6.4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育カリキュラムの作成における最新の研究成果や学識を利用できるよう、カリキュラム委員会において体系的に検討している（資料 6-12）。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-12：2023 年度第 1 回カリキュラム委員会議事録（2023 年 7 月 21 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

すべての学生が医学研究や開発に携わる機会を確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

研究室配属システムを拡充し、すべての学生が参加する機会を確保すべく取り組んでいる（資料 6-13）。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-13：研究室配属 2023 年度集計

6.5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

医学教育センターを中心に多くの専従教職員を配置し、教育の実践を支援するための活動を推進していることは評価できる。

改善のための助言

教育活動全般において、教育専門家をより活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センター所属教員をはじめ医学教育専門家が各部門により強く関与できるよう、メンバーの充実を図る。医学教育専門家は 2023 年度には 4 名と増加している。また 2023 年 4 月より医学教育学講座が新設され、教育・研究活動の中心となっている（資料 6-14）。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-14：2023 年度 帝京大学医学部課程・講座組織図（2023 年 4 月教授会資料）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

医学教育センター職員を中心に医学教育研究を推進している。

改善のための示唆

教育評価や医学教育分野の研究における最新の専門知識に、一層注意を払うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育分野における研究や教育評価について、2024 年 8 月に帝京大学医学部を主幹校として第 56 回日本医学教育学会大会の開催に向けた準備を進めており、医学教育分野における学会等への積極的な参加や発表を促し、教育の実践につなげている（資料 6-15）。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-15：第 56 回日本医学教育学会大会開催資料（教授会資料）

6.6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

他の教育機関との交流について方針を定め、教職員の交流が行われている。

改善のための示唆

国内の教育機関への協力をさらに推進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

大学としての他教育機関との連携状況を踏まえ、協力をさらに推進するよう働きかける（資料 6-16、17、07）。

資料 6-16：2023 年度 BSC 海外実習実績

資料 6-17：2023 年度『衛生学公衆衛生学実習』（ベトナムにおける感染症）

資料 6-07：2022 年度卒業生調査（2023 年 3 月実施）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

現在行っている国内外との交流をさらに発展させるべく関係部署で働きかけを行う（資料 6-16）。

改善状況を示す根拠資料

資料 6-16：2023 年度 BSC 海外実習実績

7 教育プログラム評価

教育プログラム評価において、以下の改善活動に取り組んでいる。教育プログラムの実施組織とモニタ組織の位置づけを明確にするため、カリキュラム立案に責任を持つカリキュラム委員会を 2023 年度に新設した。一方、プログラム全体を俯瞰的にモニタする組織として IR・医学教育評価室を位置づけ、教育プログラム評価会議を設置した。IR・医学教育評価室では、教員および学生からのフィードバックの収集にあたり、統合した学修支援ツールを活用して実施するなどの改善に取り組んでいる。教育プログラム開発の改善に向けて、在学生に加え卒業生からの学修成果について収集分析を継続しており、同窓会との連携強化も視野に入れている。教育プログラム評価会議には学生や外部の教育専門家を含む、教育に関わる主要な関係者が参画し、幅広い視野からの評価を得る仕

組みを構築しつつある。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

プログラム評価を実質的に行うのは部会や小委員会であり、プログラム全体を俯瞰的に評価する組織的活動を設置すべきである。

実質的に教育プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織から独立しているべきである。

多くの部会や委員会で挙げられた課題をまとめて、プログラムモニタ・評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラム全体を俯瞰的に評価する組織的活動として、2023年度より内部質保証会議の下に外部評価者や医学教育の専門家が参画する「教育プログラム評価会議」を設置した(資料7-01、02)。従来通り部会や委員会による、管轄領域のプログラム評価を継続していくことに加え、プログラム全体の俯瞰的な評価を担うこととしている。同じく2023年度よりモニタと評価を行う組織として位置付けているIR・医学教育評価室の支援のもと、立案と実施を行う組織から独立し、俯瞰的な教育プログラム評価を推進している(資料7-01、03、04)。

多くの委員会や部会で挙げられた課題をまとめ、プログラムモニタ・評価の結果をカリキュラムに確実に反映するために、IR・医学教育評価室をモニタと評価を行う組織としての位置付けとして、プログラム全体を俯瞰的にモニタする体制に改めた(資料7-03)。教務委員会執行部会議(毎週)、教務委員会(毎月)、教育関係運営会議(毎月)などのカリキュラム実施組織に確実にフィードバックされ、カリキュラム実施組織がモニタ・評価結果を迅速にカリキュラム改善(短周期PDCAサイクル)に反映できる体制を整えた(資料7-05)。モニタ結果は、プログラム立案の責任組織として2023年度に設置したカリキュラム委員会およびその下部組織であるカリキュラム検討部会にも確実にフィードバックされ、長期的なプログラムの改善に活用される(長周期PDCAサイクル)(資料7-06、07)。

改善状況を示す根拠資料

資料7-01：帝京大学医学部教学体制図(2023年4月)

資料7-02：帝京大学医学部教育プログラム評価会議規程

資料7-03：帝京大学医学部IR・医学教育評価室設置規程

資料7-04：2023年度第1回帝京大学医学部教育プログラム評価会議議事録(2023年10月13日)

資料7-05：帝京大学医学部カリキュラム委員会規程(2023年4月1日版)

資料 7-06：2023 年度第 1 回帝京大学医学部カリキュラム委員会議事録（2023 年 7 月 21 日）

資料 7-07：2023 年度第 2 回帝京大学医学部カリキュラム委員会議事録（2024 年 2 月 19 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

教育プログラムを包括的に評価する仕組みを充実することが望まれる。

長期間で獲得される学修成果や社会的責任について、定期的に教育プログラムを評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラムを包括的に評価する仕組みを充実すべく、外部評価者も関与する教育プログラム評価会議を 2023 年度に設置した（資料 7-02）。IR・医学教育評価室では多様な関係者からフィードバックを得て、プログラム評価組織である自己点検・自己評価委員会および教育プログラム評価会議にモニタ結果を報告している（資料 7-04）。

長期間で獲得される学修成果について定期的に教育プログラムを評価するために、現在卒後 2 年目研修医を対象にしている卒業生フォローアップ調査の調査対象期間を、同窓会との連携強化によりさらに延長することを検討している。

社会的責任について定期的に教育プログラムを評価するために、臨床研修医の指導医だけでなく、医学教育および医療に関わる広範な関係者（臨床研修修了後の卒業生が勤務する医療施設または医育機関の関係者など）から、卒業生の実績およびカリキュラムに対するフィードバックを得ることで、社会に対する説明責任を果たすように取り組んでいる（資料 7-06）。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-02：帝京大学医学部教育プログラム評価会議規程

資料 7-04：2023 年度第 1 回帝京大学医学部教育プログラム評価会議議事録（2023 年 10 月 13 日）

資料 7-08：2023 年度第 1 回医学部内部質保証評価会議議事録（2023 年 7 月 19 日）

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

「教育への意見」や各種の学生アンケートなどにより部分的なフィードバックを教員と学生から得ている。

改善のための助言

モニタ・評価する組織が、教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し対応すべきで

ある。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し対応するために、プログラムモニタ・評価組織として IR・医学教育評価室を位置付け、教員からのフィードバックを「教育活動報告書」より得て、その内容を関連する委員会・部会等に、改善や検討が必要な事項として、教育関係運営会議等で、プログラム立案・実施組織に共有している（資料 7-09、10）。学生からのフィードバックについて、複数の学修支援ツールを統合して認証するシステムを導入することで、利便性向上を図るとともに系統的な収集が可能になりつつある（資料 7-11～15）。教育の質保証に向けた活動として、モニタ・評価活動が系統的に実施されていることについて、内部質保証評価会議の意見を踏まえ継続・改善していく（資料 7-08）。IR・医学教育評価室にて収集したデータやフィードバックは、医学教育センターが毎月発行している医学教育センターニュース（CMET ニュース）において、継続的に学生および教員に周知している（資料 7-16-1～11）。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-09：2022 年度「教育への意見」調査まとめ

資料 7-10：2023 年度教員調査「教育への意見」一覧

資料 7-11：2023 年度 2 年生調査

資料 7-12：2023 年度 3 年生調査

資料 7-13：2023 年度 4 年生調査

資料 7-14：2023 年度 5 年生調査

資料 7-15：2023 年度 6 年生調査

資料 7-08：2023 年度第 1 回医学部内部質保証評価会議議事録（2023 年 7 月 19 日）

資料 7-16-1～11：2023 年度医学教育センターニュース

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

より系統的にフィードバックを得て、教育プログラムの開発につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

系統的にフィードバックを踏まえた教育プログラムの開発に関して、学生および教員から寄せられた意見の中で、設備・教育資源において、自主学修およびグループ学修ができるスペースの希望が多く寄せられた。こうした声を踏まえ、学修スペースを確保するとともに、演習・臨床推論・臨床実習などの機会を自主学修・反転授業・グループワークなど前提としたプログラムが実践されている。こうした取り組みは教務委員会や FD などで共有され、教育プログラムの開発や改善につながっ

ている（資料 7-17）。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-17：2023 年度 最新・最先端など授業への組み込みに関するアンケート（2023 年 5 月 8 日）

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

卒後 2 年目に、卒業生および臨床研修病院の指導医に対して、医学部のアウトカムに応じたコンピテンシーの達成度調査を組織的に開始している。

改善のための助言

使命と意図した学修成果について学生と卒業生の実績を分析すべきである。

カリキュラムの大きな改革に関連して学生と卒業生の実績を分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

使命と意図した学修成果について、進学時調査を継続してモニタしている（資料 7-11～15）。卒業生の実績について、卒業生フォローアップ調査の調査対象期間を、同窓会との連携強化によりさらに延長することを検討している（資料 7-18、19）。カリキュラムの大きな事項として、臨床実習期間の確保（72 週間化）による学生の達成度に変化について、学年ごとの学修成果を比較することで IR・医学教育評価室においてデータを収集している（資料 7-20、21）。

また、カリキュラムの大きな改革としては 1 学年早期臨床体験実習および 3 学年エスコート実習、医学英語および解剖学の再構築が挙げられる。効果に関しては教務委員会および IR・医学教育評価室にて実績を収集している（資料 7-22、23）。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-18：2023 年度卒業生フォローアップ調査（2021 年度卒業生調査）

資料 7-19：2023 年度卒業生フォローアップ調査（2021 年度卒業生 初期臨床研修病院）

資料 7-20：2023 年度コンピテンシーの達成度に関する自己評価

資料 7-21：2021-2023 年度コンピテンシーの達成度自己評価

資料 7-22：2023 年度 1 年生早期臨床体験実習アンケート

資料 7-23：2023 年度 3 年生エスコート実習 学生アンケート集計結果

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

学生の背景と状況および入学時成績に関連して学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。学生と卒業生の実績を分析する組織と、カリキュラムを立案する組織が独立していることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

複数の学修支援ツールを統合して認証するシステムを導入し、入学時の成績等を収納しており、これを CBT、OSCE、卒業試験の成績と国家試験成績と紐付けての相関解析を行っている。これをもとに学生の背景についてもデータ化し分析対象に加えている。学生と卒業生の実績の分析に基づいたカリキュラムへの具体的な反映は 2023 年度に立ち上げたカリキュラム委員会で検討している（資料 7-06、07）。カリキュラム委員会は教務委員会執行部会議、教務委員会、教育関係運営会議などのカリキュラム実施組織とは独立している（資料 7-01）。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-06：2023 年度第 1 回帝京大学医学部カリキュラム委員会議事録（2023 年 7 月 21 日）

資料 7-07：2023 年度第 2 回帝京大学医学部カリキュラム委員会議事録（2024 年 2 月 19 日）

資料 7-01：帝京大学医学部教学体制図（2023 年 4 月）

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

教育プログラムのモニタを行う教務委員会には学生が参加している。

改善のための助言

教育プログラムの評価を行うとされる自己点検・自己評価委員会に学生が参加すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023 年度より教学体制の組織改定を行い、プログラムモニタ・評価組織としてモニタを行う IR・医学教育評価室、評価を行う教育プログラム評価会議、質保証を行う内部質保証評価会議が規定された（資料 7-01）。教育プログラム評価会議は内部質保証会議の下に設けられている。教育プログラム評価を行う会議体には学生に加えて、薬学部など他学部の委員や外部の医学教育専門家も入り、教育プログラム評価に関する意見をj得ている（資料 7-02）。医学部自己点検・自己評価委員会が分野別認証における領域ごとの自己点検・自己評価が中心であったが、今後年次報告を経て、プログラム全体の俯瞰的評価を推進することとしている（資料 7-24、25）。教育プログラム評価に関する学生からの意見は、医学部自己点検・自己評価委員会ではなく、教育プログラム評価会議において得る体制としている。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-01：帝京大学医学部教学体制図（2023 年 4 月）

資料 7-02：帝京大学医学部教育プログラム評価会議規程

資料 7-24：帝京大学医学部自己点検・自己評価委員会規程

資料 7-25：帝京大学医学部第 1 回自己点検・自己評価委員会議事録（2023 年 5 月 31 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

広い範囲の教育の関係者から、卒業生の実績ならびにカリキュラムに対するフィードバックをより充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

広い範囲の教育の関係者から、卒業生の実績およびカリキュラムに対するフィードバックを充実させるために、教育プログラム評価会議および質保証を行う内部質保証評価会議において、学生に加え、他学部の委員や学外の医学教育専門家が参加している。教育プログラム評価会議では収集データの信頼性、点検・評価の必要性について、内部質保証評価会議では、ICT の活用についての指摘がなされた（資料 7-04、08）。今後新規に収集・分析される卒業生の実績およびカリキュラムに対するフィードバックをより充実させる取り組みを続けていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 7-04：2023 年度第 1 回帝京大学医学部教育プログラム評価会議議事録（2023 年 10 月 13 日）

資料 7-08：2023 年度第 1 回医学部内部質保証評価会議議事録（2023 年 7 月 19 日）

8 統轄および管理運営

質的向上のための水準における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、教務委員会や教育プログラム委員会など、教育関係組織の機能を明瞭に規定することに取り組んでいる。また、委員会等において、その他の教育の関係者からの意見をより多く反映できるようにしており、さらには教学におけるリーダーシップの評価内容を明示し、使命と学修成果と照合していくことが今後の課題といえる。

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

大学全体、医学部、医療系学部の集まる板橋キャンパスの 3 つの階層で、学長、副学長、医学部長のリーダーシップのもと、教育の実施と改革に関わる委員会等の組織が整備されていて、学部間の連携を可能にしている。

改善のための助言

教務委員会や教育プログラム委員会など、各教育関係組織の機能を明瞭に規定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各教育関係組織の機能明確化について、従来の教育プログラム委員会（Plan&Check）を発展的に改組し、新たにカリキュラム委員会（Plan）と教育プログラム評価会議（Check）を設置した（資料 8-01～03）。教育プログラム評価会議については、外部の医学教育専門家を含む第三者の視点による客観的評価を行うことを明瞭に規定している。2023 年度に帝京大学医学部の教学体制を見直すとともに、板橋キャンパスの委員会組織の変更を行った（資料 8-04）。教育プログラム評価会議は内部質保証会議の下に設けられ、プログラム全体の俯瞰的評価活動を開始した（資料 8-05）。機能を明確化した上でのカリキュラム改善を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 8-01：帝京大学医学部カリキュラム委員会規程

資料 8-02：帝京大学医学部教育プログラム評価会議規程

資料 8-03. 帝京大学医学部カリキュラム委員会規程（新）および帝京大学医学部教育プログラム委員会規程（旧）の対照表

資料 8-04：帝京大学医学部教学体制図（2023 年 4 月）

資料 8-05：2023 年度第 1 回帝京大学医学部教育プログラム評価会議議事録（2023 年 10 月 13 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

その他の教育の関係者からの意見をより多く反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

その他の教育の関係者からの意見をより多く反映させるために、外部の専門家、他の医療系学部（薬学部、医療技術学部）の委員、患者および医学教育の専門家等の会議・委員会への出席を促進している。使命と学修成果の策定にあたり、学生委員や外部の教育関係者について、カリキュラム委員会・教務委員会・学生委員会・教育プログラム評価会議・内部質保証評価会議での発言が活発に出るよう当日の進行を工夫するとともに、発言箇所の議事録を確認するなど会議・委員会としての自己点検に努めている。使命と学修成果の策定について、引き続き広い範囲の教育の関係者の意見を聴取していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 8-06：2023 年度第 1 回帝京大学医学部カリキュラム委員会議事録（2023 年 7 月 21 日）

資料 8-05：2023 年度第 1 回帝京大学医学部教育プログラム評価会議議事録（2023 年 10 月 13 日）

資料 8-07：2023 年度第 1 回医学部内部質保証評価会議議事録（2023 年 7 月 19 日）

8.2 教学のリーダーシップにおける執行部

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

教育に関係するさまざまな組織のリーダーシップの責務が、大学および医学部の関係規則に規定されている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「教学のリーダーシップ」としての教学の執行部の責務について、医学部の関連規程に規定されている内容を、継続的に見直し改訂する。また、その透明性を確保していく（資料 8-08）。

改善状況を示す根拠資料

資料 8-08：2023 年度板橋キャンパス各学部・研究科・学科等委員会組織図

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

教学におけるリーダーシップの評価内容を明示し、使命と学修成果と照合することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

リーダーシップの評価内容を明示し、使命と学修成果と照合することについて、具体的には内部質保証評価会議において、PDCA サイクルが十分に回っているかどうかを評価することのみならず、学修成果の到達度などを会議で明示し、使命と学修成果に照合した上で、その達成度によるリーダーシップ評価を行う方針を設けていく（資料 8-09、07）。その上で、年次ごとの評価を客観的に実施し会議議事録に反映していく。本学は 2022 年度より、新人事制度評価制度を導入した。学長による基本方針をもとに、学部長による 医学部行動方針が定められ、この方針をもとに各講座等の責任者が行動方針を定め、さらに各教員が個別に行動方針を策定し、年度末に上長が評価する仕組みである。この新人事評価制度を 2022 年度に基礎系の教員、2023 年度には臨床系の教員にも導入した（資料 8-10、11）。この評価制度をもとに、大学直轄の法人人事統括室が中心になって学部長等のリーダーシップを評価する仕組みが確立した。この評価制度に絡めて、教学における各リーダーシップを評価する仕組みの構築を計画している。

改善状況を示す根拠資料

資料 8-09：帝京大学医学部内部質保証評価会議規程

資料 8-07：帝京大学医学部内部質保証評価会議議事録（2023 年 7 月 19 日）

資料 8-10：2003 年度人事評価「期初プロセス」のご案内【大学教員】（臨床以外）（2023 年 5 月 1 日）

資料 8-11：2003 年度人事評価「期初プロセス」のご案内【大学教員】（臨床系）（2023 年 5 月 22 日）

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

学長等のリーダーシップのもと、教育業務への ICT 活用や学生支援に予算を弾力的に配分している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

予算の弾力的配分について、現在の運用を継続するとともに、医学部臨床講座費配分委員会や医学部基礎医学委員会などの関連委員会にて定期的な見直しを行う（資料 8-12、13）。ICT を活用した遠隔授業の教育コンテンツの充実と配信サービスの強化については、統合化した学修支援ツール（Blackboard LMS[®]、CampusSquare[®]、Prime Learning[®]）などのシステムの運用が進んでおり、これを推進する（資料 8-14）。

改善状況を示す根拠資料

資料 8-12：帝京大学医学部臨床講座費配分委員会議事録

資料 8-13：帝京大学医学部基礎医学委員会議事録

資料 8-14：新統合認証基盤利用マニュアル

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

COVID-19 の影響を受けて病棟や外来で実習することが困難な状況で、シミュレータ・システムの導入を行うなど、医学および社会の新しい状況に対応して教育資源を配分している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「シミュレータ・システムの導入や配備」について、現在の運用を継続し定期的な見直しを行っている。CBT および OSCE を経て認定される臨床実習生（スチューデントドクター）が臨床実習において安全に医行為を実施できるような学修環境を整えることが、社会的要請として求められている。そのためのシミュレータ・システムや OSCE 実習室について、大学本部、医学部附属病院（主に板橋本院）と医学部執行部が相互に連携しながら整備と運用を推進している（資料 8-15、16）。

改善状況を示す根拠資料

資料 8-15：帝京大学板橋キャンパスシミュレーション教育研究委員会規程

資料 8-16：帝京大学板橋キャンパスシミュレーション教育研究委員会議事録（2023 年 4 月 28 日）

8.4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

教育に関する事務組織が整備され、事務職員と専門職員が配置されている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「教育に関する事務組織の整備」について、教務課の組織を、従来の医学部係・薬学部係・医療技術学部係、大学院係、学事企画係といった学部ごとの縦割りの組織を解消し、2023 年度より学部等を横断した授業・試験係、実習係、大学院・学事企画係に改変して業務にあたっている（資料 8-17、18）。新たに整備された事務組織のもと、2022 年度より導入された教務システム（Campus square[®]など）の効果的な運用を継続していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 8-17：2023 年度教務課新体制について

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

学長室および自己点検・自己評価委員会が管理運営についての質保証を行っている。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023年度より学校法人帝京大学の企画・管理局内にDX推進室が設置された(資料8-18)。2023年9月、帝京大学本部にてデジタルトランスフォーメーション(DX)の学内説明会を実施した。大学4キャンパスの職員をはじめ、医学部附属病院の職員などオンライン視聴を含め計約400人が参加し、DX化・デジタル化について理解を深めた。当面は、管理部門の業務改善や業務フローの統一化などを検討している段階であるが、今後、第2フェーズにて、教育面のDX推進を検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料8-18：学校法人帝京大学事務組織図

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

地域の医療機関や東京消防庁、自治体等の行政機関における実習や交流の機会が多く設けられている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域社会や行政の保健医療部門や保健医療関連部門と建設的な交流について、現在の緊密な関係を継続するとともに、引き続き交流面の運用的な見直しを行う。『地域医療実習』に関しては、2022年度に医学部附属病院に総合診療科が設置され、同診療科が中心になって地域医療実習ワークショップを開催し、『地域医療実習』をコーディネートし地域の医療機関との交流を推進した(資料8-19、20)。地域の医療機関との交流を継続し、教育環境の実現と医療機関との情報共有を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料8-19：2023年度『地域医療実習』実習先一覧

資料8-20：2023年度地域医療実習ワークショップ案内

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

さまざまな形で地域保健所、医療機関等との協働の機会を設けて、スタッフが関わっている。

改善のための示唆

保健医療関連部門のパートナーとの協働に、より多くの学生の参画が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

保健医療関連部門のパートナーとの協働について、『衛生学公衆衛生学実習』などで、保健所・行

政との協働に基づく実習を実施している（資料 8-21）。引き続き板橋キャンパスの学部・学科の垣根を超えて、また教職協働で学生の参画を増やす計画を支援する。

改善状況を示す根拠資料

資料 8-21：2023 年度『衛生学公衆衛生学実習』シラバス

9 継続的改良

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

教育関係運営会議、教務委員会、教育プログラム委員会、医学教育センター、IR・医学教育評価室等の継続的な改良を行うための組織が設置されている。

改善のための助言

教育プログラムの構造、内容、学修成果/コンピテンシー、学生評価を定期的に見直し、確実に改善する方法を策定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂（令和 4 [2022] 年度）を踏まえて、教育プログラムの構造、内容、学修成果/コンピテンシー、学生評価を IR・医学教育評価室による調査をもとに、医学部自己点検・自己評価委員会、教育プログラム評価会議、内部質保証評価会議がモニタと評価を行い、新設したカリキュラム委員会が教育プログラムの改善案を提案し、教務委員会が改善されたプログラムを実施する体制を構築した（資料 9-01～05）。各会議・委員会は定期的開催され、教育プログラムの構造、内容、学修成果/コンピテンシー、学生評価を定期的に見直し、改善することを目的として活動する。2023 年に医学教育学講座が新設され、教育の継続的改良に向けた各組織への参画、教員研修、医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂への教育内容分析に努めている（資料 9-06）。2024 年には第 56 回日本医学教育学会大会を主催し、本学の教育改良に資するべく国内外の医学教育学者との交流を行う（資料 9-07）。

改善状況を示す根拠資料

資料 9-01：帝京大学医学部教学体制図（2023 年 4 月）

資料 9-02：医学部自己点検・自己評価委員会規程

資料 9-03：帝京大学医学部教育プログラム評価会議規程

資料 9-04：帝京大学医学部内部質保証評価会議規程

資料 9-05：帝京大学医学部カリキュラム委員会規程

資料 9-06：2023 年度 帝京大学医学部課程・講座組織図（2023 年 4 月教授会資料）

資料 9-07：第 56 回日本医学教育学会大会ポスター

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

評価を実施せず